

令和 6年 2月 13日

議員視察報告書

赤穂市議会

議長 土遠 孝昌 様

議員氏名 中谷 行夫

下記のとおり、研修会に参加しましたので、報告します。

記

- 1 実施日 令和 6年 2月 7日 (水) (1日間)
- 2 開催場所及び講義内容 (詳細については別紙のとおり)

大阪市北区梅田 1 丁目 11-4

リファレンス大阪駅前第 4 ビル

地方議員研究会主催

(1) 自治体病院の基礎と課題 (10 : 00～12 : 30)

- ・自治体病院の歴史と課題
- ・病院の統合・再編問題を考える
- ・コロナ対応と地域医療構想
- ・各地の病院経営成功事例
- ・各地の病院問題の混乱事例 ～政治家の不勉強が招く悲惨な事例

(2) 病院経営質問虎の巻① (14 : 00～16 : 30)

- ・地方公営企業年鑑からわかる事実
- ・あなたの街の病院会計を見る
- ・医師数や給与、手当は比較することで見えてくる
- ・女性医師数と研修マッチング
- ・財政課や職員も知らない病院改革の勘所

講師：伊関 友伸 氏 城西大学経営学部教授

【目 的】

赤穂市民病院は、厳しい経営状況が続いており、経営改善に向けた院内意識の向上や新型コロナウイルス感染症への対応による空床・休床補償により黒字化を達成したが、令和5年度の経営状況は、患者数の減少が大きく、大変厳しい状況が続いている。

令和3年度の赤穂市民病院経営検討委員会報告書による提言を受け、現行の地方公営企業法の全部適用で経営改善を図る方針を決定されたが、現状では改善目標値を2年連続で達成できない見込みとなっており、経営形態の移行を検討することが必要となる時期がきている。

赤穂市民病院の経営改善、今後の在り方について、将来を踏まえた赤穂市民にとって最善の医療を確保するため、議員として必要な知識と改善方法を学びたく参加した。

【講義内容】

(1) 自治体病院の基礎と課題

自治体病院の多くが中小規模自治体に立地されており、全自治体病院の内65.3%は人口10万人以下の自治体に立地し、30.2%は人口3万人未満の自治体に立地している。病院数の割合で10%の自治体病院が多くの役割を担っている。

これまで税金が投入されている自治体病院は、いらぬのではないかと批判されてきたが、新型コロナへの対応で自治体病院の必要性は国民に理解された。

世界的に見ても日本の病床数は多く、過大な病床数に医師・看護師が分散配置され、結果として診療の密度が低く、平均在院日数が長くなっている。

公的病院の病床規制施策の結果、世界的に見ても日本は民間病院の割合の高い国となった。

自治体病院の収支は、全体の繰入金約8,000億円超、その一定額は地方交付税措置されている。交通の条件の悪い町村、病床数の少ない病院を中心に医業収益は悪化にある。

将来の医療提供体制の危機において、公立病院の果たす役割は大きく、民間医療機関が病院数・病床の多くを占める我が国においては、競争原理による医療提供体制が基本となり、隙間が生じやすい。そのような中で、公立病院はバッファーとなり、医療提供体制の隙間を埋めていくことが求められる。

経営強化の基本的な考え方は、公立病院が担うべき役割・機能を改めて見直し、明確化・最適化した上で、病院間の連携を強化する「機能分化・連携強化」を進めていくことが必要である。中核的医療を行う基幹病院に急性期機能を集約し医師・看護師等を確保し、基幹病院からの不採算地区病院をはじめとする基幹病院以外の病院への医師・看護師等の派遣等の連携を強化する。

「地域連携室」は、「砦」機能の強化のための最重要部門である。他の医療・介護施設との連携を強化し、診療所や介護施設からの患者受け入れ、拠点病院からの患者の積極的な受け入れ、地域住民への働きかけ等を通じ、地方の中小病院を地域の医療の「砦」機能を強化していく。

特別交付税には実際に繰入れが必要で、総務省は基準を超えた繰入れを問題としているが、その一方、必要な繰入れをしない過少繰入れも問題としている。

地域の産業としての病院や福祉施設は高齢化が進む地方において、数少ない将来を見込める産業である。産業振興の観点で病院や福祉施設を考えるべきである。

地方の自治体病院の支出の約6～7割は人件費、地域の重要な雇用先という面がある。食材や物品の購入など地域に落ちるお金を相当額に及ぶ。

医療に関しての都市と地方の格差は広がる一方、開業医も引退して地域で唯一の外来機能を有することも多く、外来機能を守るためにもある程度の規模の医療機関（できれば病院）を維持する必要がある。

病院の個室化は、感染症対策で重要な視点である。自治体病院の場合、個室料を取れるのが3割までなので、個室率は30%を上限とする思考を持ちやすい。石川県の加賀市医療センター（300床）はオール個室、個室料を取らない。

個室のメリットは、新型コロナウイルス、インフルエンザなどの感染症に対応でき、男女関係なく入院可能。認知症の患者の対応もしやすく、家族の付き添いが可能。お見舞いの時間が長くなる。

病院統合再編は医療を残すための選択肢で、医療が高度・専門化する中で中小規模の病院では、若手中堅医師は勤務せず、大学医局もなかなか医師を派遣しない。

看護師も集まりにくく、認定看護師などの資格者も増やしにくい。

600床、医師200人規模で医師が集まり、黒字化となっている。

時代遅れの指定管理者制度導入は、本格的少子高齢化の到来で看護師不足は厳しい状況になっている。看護師不足は、今後一層深刻になるのが確実である。

職員全員の解雇を前提とした指定管理者制度は看護師の大量退職を招き、医療崩壊を起こす危険性のある施策になっている。

（2）病院経営質問虎の巻①

地方公営企業年鑑で自治体病院の経営評価のデータで重要なものは、総務省が毎年発表している。地方公営企業法が適用される全ての自治体病院、地方独立行政法人の財務・経営データが一覧できる。

不採算地区病院の単価は年々上昇している。総務省は2021年度の不採算地区の特別交付税を大幅に増額している。

病床利用率は、医師不足、病院間の競争に負けて病床利用率を大幅に減らしている自治体病院が少なくない。病院の状況にもよるが80%は欲しい。

新公立病院改革ガイドラインは、地方交付税措置に関して、算定基礎を従来の「許可病床数」から「稼働病床数」に見直している。

平均在院日数について、急性期病院は日数が短く、高齢者の入院の多い病院は日数が長い傾向がある。10日を切る急性期病院も存在する。

診療報酬上、平均在院日数が長いと収益が減少する制度となっている。

1日平均入院・外来患者は、経営の重要指標である。入院患者は集患により、増やす努力が必要で、入院患者数は、病床利用率、1日1人平均入院単価との関係が重要である。

外来患者数は、医師の負担軽減のため、大規模病院は患者数を減少させる傾向である。

入院外来患者の増加策として、医療・介護施設へのアプローチ、消防本部救急隊へのアプローチ、地域住民・患者へのアプローチが必要である。

医師数・報酬月額は、各病院の常勤医師数、報酬月額が公表されている。各都道府県や医師派遣大学ごとの医師給与の相場が把握できる。

時間外勤務手当は、名ばかり管理職として医師・看護師等に時間外勤務手当を支給していない自治体病院が多い。労働基準監督署が入ると2年間遡って未支給分を払うことを求められる。

女性医師数について、割合は年々増加している。医科大学の女性医学生は割合は年々増加している。女性医師の勤務する病院を目指す必要がある。

全体として、地方の国立大学病院は不人気である。研修能力の高い都市部の市中病院に初期研修医が集まる傾向が強まっている。

新しい建物の病院に医師は勤務する。古い建物では使い勝手も悪く、アメニティも劣悪なことが多い。新型コロナのような感染症対策も不十分のため、新しい病院に医師が集まる傾向が高まっている。

医療法の改正により基準を満たせない病院が発生する。都市部の3次救急病院、地方の中規模中核病院、小児、産科などの診療科ではA水準を取れない、B・Cを満たせない医療現場が発生する恐れがある。

大学病院も上限規制の対象となり、医師の引き揚げが起きる危険性がある。

医師の働き方改革に対応するために、医師を拠点病院に集める、医療機能を集約することも必要である。

他職種へのタスクシフト、ITなどの省力化などによる医師の負担減などできる努力は全て行うことが必要である。

【所 感】

この度の研修により、公的病院の必要性、赤穂市民病院は現行の地方公営企業法の全部適用を経営改善により維持することの必要性を改めて感じた。

それには医師の確保が必要で、高度な医療技術を持つ医師や病院事業管理者の下に医師が集まるとのことで、地方の医学部を出た医師は、神戸大学の医局に入る傾向があるようで、神戸大医学部へのアプローチが必要と感じた。

また、女性医師が増えていく傾向において、女性医師が働きやすい環境づくりが必要である。

経営改善の中で、医師・看護師等の給与の削減は、大量退職に繋がるとのことで、特に指定管理者制度となれば更に大量退職となるため、経営形態を変更することになった場合は、慎重に検討すべきと考える。

患者の集患には、医師の確保と医療の安全について、信頼と信用が最重要課題となるので、早期の医療訴訟の解決と日本脳神経外科学会の専門訓練施設の再認定が必要であると強く感じた。

研修会で得られた知識を少しでも経営改善に反映できるよう、今後も病院事業について探求し、医療現場の声を重要視しながら、議員として選ばれる病院づくりに努めていきたい。